

千賀戸神社彫刻
(瓶割りの図)
昭和村ボランティアガイドの会
会長 角田 勝美

椽久保、千賀戸神社本殿の三側面には、立派な彫刻がある。



三面のうち二面の写真

これは、明和四年(一七七七)から翌五年(一七八八)に造られたもので、その面の一つ、本殿左側(瓶割りの図)について述べてみたい。

この彫刻は、司馬温公(司馬光)の瓶割り図と呼ばれるもので、生命の大切さを現したものである。昔の中国・北宋(九六〇～一二七)の時代の人物で、政治家として、また「資治通鑑」という二九四巻にもおよぶ政治の参考となる本を書いた学者である。

その温公が、子どもの頃のこと、大きくてとても高価な水瓶

があった。そのあたりで遊んでいたところ、友達の一部がその水瓶の中に落ちて、今にも溺れそうになっている。

そこで温公は、友達を助けるために、父親に叱られるのを覚悟して石で瓶を割ったという。



瓶割りの図

その結果、友達の命は救われた。それを聞いた父親は、叱るところか、温公を褒めたため、改めて命はどの様な高価なものよりも大切だと教えたという。

この教えの「瓶割りの図の彫刻」を見事に仕上げた彫刻師は、旧勢多郡東村の星野政八郎と、同郡黒保根村の福田助次郎の二人である。

古くからこの地域は彫刻師が多く、日光東照宮の建造物の修復、建築および各地の神社仏閣の彫刻を業としていたと、ここで、優れた彫刻師が多かったことと思われる。

話によると、政八郎は彫刻師のほかに指物師としても優れており、造った物は寸分の狂いもなかったといわれている。



地域包括支援センターだより

地域にとって大切な場所、サロンの活性化を目指して！

～第17回きずなサポーター会議(10月30日)の報告～

昨年12月に開催して以降、新型コロナウイルスの影響により中止となっていた、きずなサポーター会議を10か月ぶりに開催しました。感染症対策のため参加人数制限や入口での手指消毒の実施、マスクを着用しての開催となりました。

今回は内田病院の音楽療法士(サロンアドバイザー)高橋由貴子先生に講義していただきました。感染症対策を盛り込んだ講義となっており、声を出して歌うよりも飛沫感染リスクの下がる「ハミング」とソーシャ

ルディスタンスを保てる「座ったまま行えるタオル体操」をレクチャーしていただきました。ハミングは肺機能向上やリラックス効果があり、タオル体操は手指をたくさん動かすので脳が活性化すると説明がありました。

また、今回は脳トレの要素も交えた講義となっており、参加したきずなサポーターの皆さんからは「楽しかった」との声が多く聞かれ、笑顔も見られました。



講義をしてくださった高橋由貴子先生



タオル体操に取り組むきずなサポーターの皆さん

次回きずなサポーター会議は、12月11日(金)午前9時30分から、地域活性化センターです。



問合せ 地域包括支援センター ☎24-5111(内線135)